

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-09

学校名・団体名	仙台市立高砂中学校
HPアドレス	http://www.sendai-c.ed.jp/~takajh/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	心を育てる表現活動
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校の表現活動は、震災における地域復興、生徒の自尊心向上を目的としており、いずれも地域の方々をはじめとする様々な方々の協力のもとで運営している。今回、太鼓をはじめ、本校の表現活動となっている琴・演劇・合唱・ニューソーランを地域住民の前で演奏することで、生徒の力でこれまでの様々な支援に対する感謝を示すことができるとともに、地域住民にとっても希望を与えることができると考える。</p>	

1 表現活動発表の場「高中祭」までの準備について

震災から6年が経過する現在であるが、学区の沿岸部は未だに復旧工事が続いている状態である。そのような中、本校の表現活動は、震災における地域復興、生徒の自尊心・表現力向上を目的としている。

表現活動の準備は夏季休業明けの8月下旬より生徒会主導で開始し、講師については地域の方々のほか、太鼓や箏、演劇の技術指導に精通した在仙の指導者を招き、文化祭での発表に向けて練習を行った。特に、太鼓については震災後に指導を受けた在仙のプロの和太鼓演奏者「A.toa」を再び招き、指導をいただいた。

全生徒がいずれかの表現活動に自らの選択で所属し、講師や本校教員の指導の下、練習や準備を行った。活動内容については、講師・教員と生徒の間だけではなく、生徒間でも活発に意見交換を行うことができ、技術指導においても3年生が1、2年生に助言を行うなど、積極的に後輩に伝えようとする姿が見られ、縦割り活動としても充実した活動を行うことができた。

練習会場も校内の他、太鼓については地域内の神社の協力を得て練習を行うなど、多くの協力をいただいた。本番となる高中祭には地域の方々を招待し、地域の方々の支援のもとで育まれた表現活動を披露することとした。



太鼓練習のようす

2 高中祭当日のようす

高中祭は10月23日(日)に開催した。多くの地域の方々、保護者の参加の下、生徒たちは練習の成果を十分に発揮することができた。



太鼓 演奏発表のようす

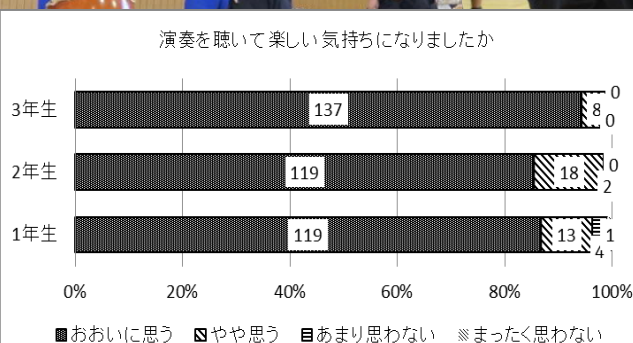
演劇発表のようす

箏 演奏発表のようす

当日は地域の町内会の方々を始め、多くの方々が参観に訪れた。6年前の被災時直後、高砂中生徒は「自分たちにできることは何か」と、避難所の運営を積極的に手伝った。仮設トイレ用の水を確保するため、プールからの水くみを何往復も行った。津波によって校庭に堆積したヘドロを除去する作業を手伝ったり、小さな子どもたちの遊び相手になってあげたりと、その多くは現在でも地域の方々に感謝されている。この表現活動も「地域に元気を届けるための活動」である。地域の方々の中には涙しながら生徒たちの発表を見続ける様子もあった。生徒たちもこれまでの練習の成果を十分に発揮することができ、地域の方々に自分たちの思いが届いたことに満足した表情を浮かべていた。



さらに、校内で「A.toa」の太鼓演奏会を開催し、生徒の表現活動に対する更なる意欲喚起を行った。左の写真は演奏会の中で一緒に演奏する生徒の様子である。今回の表現活動を通して、演奏によって人々の心に感動を与えることができることを生徒たちは改めて知ることができ、さらに自身が持つ技術を向上させたいという思い

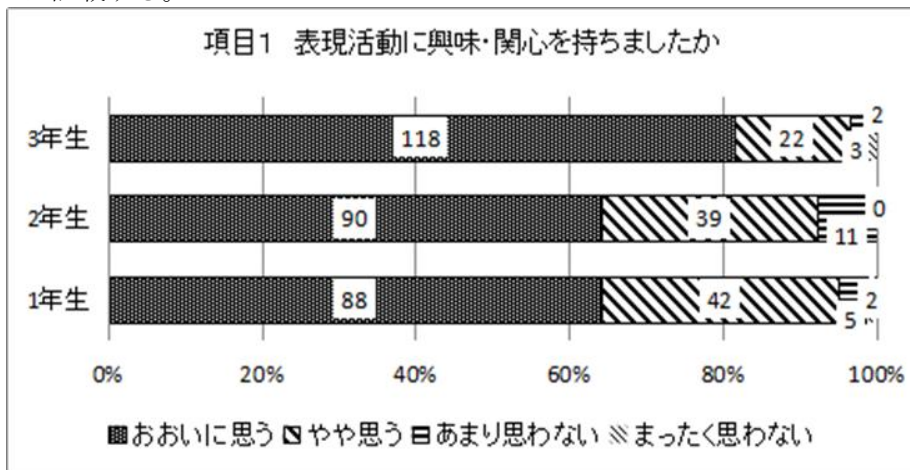


が伝わった。アンケートを見ても、演奏会に参加して楽しく、充実した気持ちになったことが伺える。自分の力で地域に楽しく充実した気持ちを贈りたいと考えた生徒もさらに多くなったと考える。

演奏会終了後のアンケート抜粋

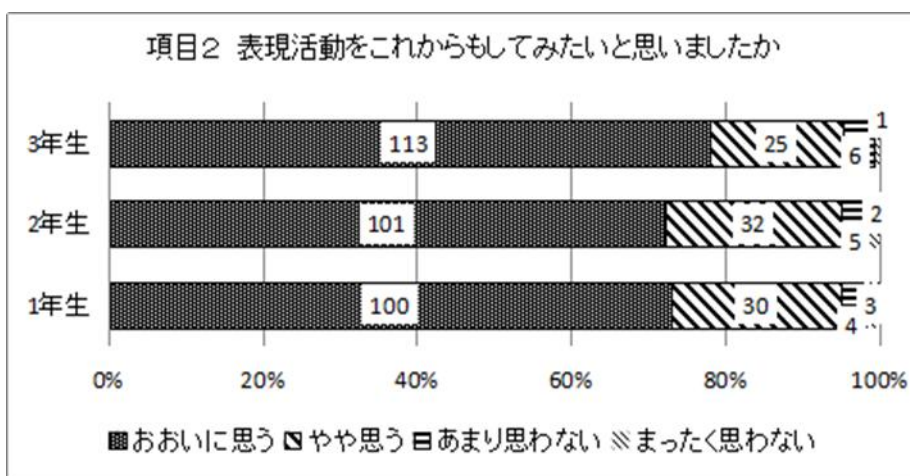
3 表現活動を通してのアンケート

すべての活動が終了した後、表現活動に関するアンケートを、全校生徒を対象に行なった。結果を以下に記載する。



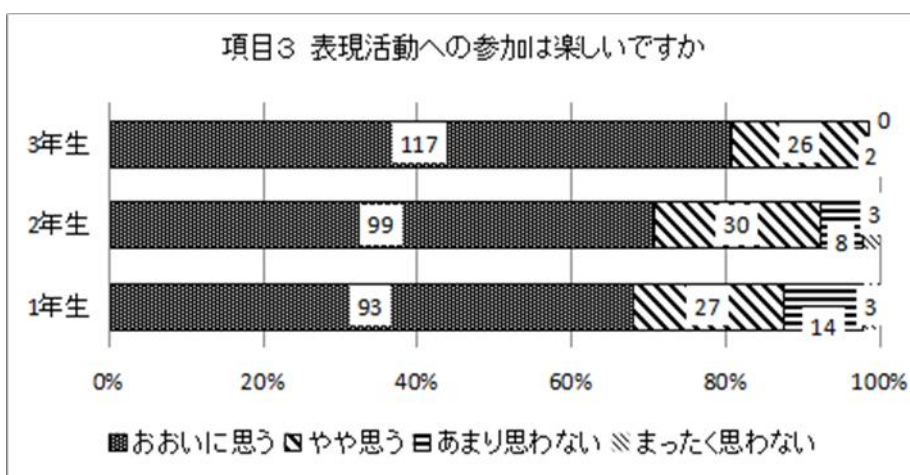
グラフ1 表現活動に対する興味・関心

項目1「表現活動に興味・関心を持ちましたか」については、肯定的な回答が多く見られ「おおいに思う」の割合が、学年が上がるにつれて上昇していることがわかる。高中祭を経験するにつれて、表現活動が持つ意味を理解し、地域に元気を届けることで生徒自身も充実感を得られることを感じた結果であると思われる。



グラフ2 表現活動への今後の姿勢

項目2「表現活動をこれからもしてみたいと思いましたか」についても、すべての学年において肯定的な回答が多い。項目1とも関連するが、今後も表現活動を通して地域に元気を届けたいという生徒の考えの表れであると考えられる。



グラフ3 表現活動に対する充実感

項目3「表現活動への参加は楽しいですか」についても肯定的な回答が多いが、特に学年が上がるにつれその割合は上昇している。生徒の中には当然ではあるが自己表現を不得意としている者もいる。しかし、地域の人々からの感謝の言葉を通し、自分たちの活動が地域の人々の感動・笑顔に結びついていることを実感することで自らの充実感も高まると考える。

4 成果や子どもたちへの効果

今回の実践を受けて、地域の方々の中で表現活動を披露することにより「自分たちが地域のために何ができるのか」を改めて考え、気付く良い機会になったと考える。また、地域の方々にとっても、本校生徒の表現活動を参観し、その熱意を目の当たりにすることで、復興に対する思いをさらに高める一助になったと考える。